



産経ニュース

「傷跡」手術や電子線 薄くする医療 加速

2008.6.5 06:44

ケロイドや肥厚(ひこう)性瘢痕(はんこん)を目立たなくする治療が本格化し、あきらめていた患者の朗報になっている。近く学会も発足する予定だ。傷跡ケアへの関心は世界的な傾向で、南アフリカ産の美容オイルも輸入されている。一方で保険外のレーザー照射で高額治療費を払いながら、効果がない場合も多いという。(八並朋昌)

「ケロイド体質は黒人に多く、白人は比較的少ない。黄色人種は中間だが、研究面では日本が一番進んでいる」と話すのは、瘢痕・ケロイド治療研究会の事務局長で日本医科大病院形成外科・美容外科の医局長、赤石諭史さん(33)。

研究会は第1回国際会議が開かれた一昨年に発足。「従来の傷跡分類の見直しや、より効果的な治療法の検討などに取り組んでいる」といい、来年以降、正式な学会に発展する予定だ。

赤石さんによると、手術などの傷跡は(1)白くきれいな成熟瘢痕(2)赤く盛り上がる肥厚性瘢痕(3)肥厚部が周囲ににじみ出すように広がるケロイドーに分かれ、病的なのは(2)と(3)。同じ部位に両方混在する人も。ケロイドは、皮膚内側の真皮を構成し、線維(せんい)質の元になるコラーゲンを分泌する線維芽細胞が増殖したものだ。

「帯状疱疹(ほうしん)の跡やブラジャー金具で擦れた傷がケロイドになる人も意外に多い。ケロイド体質の人はわずかな傷でも悪化する」と赤石さん。体質自体は未解明だが、胸中央、腹部へそ下の下半部、肩から肩甲骨にかけての3カ所にできやすい。

治療法は効果がゆるい順に〔1〕線維芽細胞の活動を抑える抗アレルギー薬の内服や保湿クリームの外用など〔2〕ステロイドテープやシリコンジェルシートの張り付け〔3〕ステロイド注射やレーザー照射〔4〕切除と放射線(電子線)照射ーの4段階ある。

「傷跡は周囲に引っ張られることで悪化するが、シリコンシートは引っ張り力を緩和する。レーザーは、線維芽細胞が分泌したコラーゲンの束を分解する酵素を、照射の刺激で分泌させるとみられる」

患者によって、これらの治療法を組み合わせる必要があるが「レーザー治療だけ行う施設があり、保険適用外なので計百数十万円払ったがよくなり、日本医科大病院を訪れる患者さんも多い」と赤石さん。同大でのレーザー照射は研究の位置付けなので、自己負担はないが患者は限定される。

かつてケロイドは、切除しても再発・悪化するため手術できないとされたが、近年は悪性腫瘍(しゅよう)にも使われる電子線照射やステロイド注射の併用で再発防止が可能になった。日本医科大のほか、北大、東京女子医大、京大、神戸大、広島大、長崎大などでも同様の治療を行っている。

日本医科大病院では肥厚性瘢痕、ケロイドとも切除手術費用の自己負担額(3割)は、局所麻酔で日帰り

だと3万円ほどだが、美容目的の場合は全額自己負担となる。

赤石さんが治療を始めた7年前、治療した患者数は年間1000人ほどだったが、近年は4000人ほどに急増し、手術は1年3カ月待ち。「治療後は患者さんの表情が明るく一変する。温泉で人の目が気にならなくなった、かゆみや痛みが取れたのが一番うれしい、といわれる」という。

一方、ハーブ利用が盛んな南アフリカ産の美容オイル「バイオイル」(60cc、1680円)が一昨年から輸入されている。「水鳥が羽づくろいに使う尾腺(びせん)油を人工的に再現した浸透性の高いオイルに、ビタミン2種とハーブ4種を配合。南ア医大の試験で、胸の手術痕が3カ月でかなり薄まるなど、6割以上の患者に有効だった。欧米など17カ国で、ごくふつうに使われている」と製造元ユニオン・スイス社の担当者。

同社が日本で20～50代の女性400人にアンケートした結果、傷跡がある人は74.7%に上った。原因はけが、にきび、手術などで、95.8%が傷跡ケアに関心をもっていた。

「傷跡は隠すより、薄くできれば喜びはより大きい」と担当者は話す。



問い合わせは日本医大付属病院(電)03・3822・2131、バイオイルは輸入元ジャンパールフリーダイアル0120・77・0469